

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3712841号
(P3712841)

(45) 発行日 平成17年11月2日(2005.11.2)

(24) 登録日 平成17年8月26日(2005.8.26)

(51) Int.Cl.⁷

F I

B6OR 7/04
B6ON 3/10B6OR 7/04 C
B6ON 3/10 A

請求項の数 5 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願平9-204608	(73) 特許権者	000135209
(22) 出願日	平成9年7月30日(1997.7.30)		株式会社ニフコ
(65) 公開番号	特開平11-42974		神奈川県横浜市戸塚区舞岡町184番地1
(43) 公開日	平成11年2月16日(1999.2.16)	(74) 代理人	100078330
審査請求日	平成14年12月12日(2002.12.12)		弁理士 笹島 富二雄
		(74) 代理人	100087505
			弁理士 西山 春之
		(74) 代理人	100067644
			弁理士 竹内 裕
		(73) 特許権者	000003997
			日産自動車株式会社
			神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

内部に容器状の収納部が設けられたコンソールボックスの後面部に、引出し自在なカップホルダ部を取付けた自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置において、

前記カップホルダ部の奥壁を、前記コンソールボックスの収納部の後面と後面部との間で移動自在な遮蔽部材により形成し、

前記カップホルダ部の後面部に、カップ等の側面を支持する水平なホルダプレートとを、水平状態に維持可能で且つ下方へ折りたたみ回動自在に取付けると共に、該ホルダプレートの先端又は該先端が当接する前記遮蔽部材の少なくともいずれか一方に、前記カップホルダ部を前記コンソールボックス内へ押戻した際に、水平状態の前記ホルダプレートの下方への回動を誘起させる回動誘起手段を設けたことを特徴とする自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置。

【請求項2】

コンソールボックスの内部に該コンソールボックスの側面部との間に所定の空間を有する容器状の収納部を形成し、該コンソールボックスの後面部に形成した開口内に、前記空間内に左右一対の第1側面部を挿入した状態でコンソールボックスに固定されるレール部材を取付け、該レール部材の第1側面部に対して前後スライド自在に係合される第2側面部を介して支持され且つ少なくとも後側に底面部を備えたカップホルダ部を設け、カップホルダ部の後面部にコンソールボックスの後面部の一部を形成するカバーを取付け、カップホルダ部の第2側面部に対して前後スライド自在に係合される第3側面部を介して支持

10

20

され且つカップホルダ部の奥壁を形成する遮蔽部材を設け、カップホルダ部の引出し時に、カップホルダ部に形成した係合部に遮蔽部材の前記係合部に対応した被係合部が押されて遮蔽部材がコンソールボックスの後面部付近まで引出された状態となり、カップホルダ部の押戻し時に、遮蔽部材が収納部の後面に当接した状態となる自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置において、

前記カップホルダ部の後面部に、カップ等の側面を支持するホルダプレートを、水平状態に維持可能で且つ下方へ折りたたみ回動自在に取付けると共に、該ホルダプレートの先端又は該先端が当接する遮蔽部材の少なくともいずれか一方に、水平状態のホルダプレート of 下方への回動を誘起させる回動誘起手段を設けたことを特徴とする自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置。

10

【請求項 3】

回動誘起手段として、ホルダプレートの先端を下方へ湾曲させた請求項 1 又は請求項 2 記載の自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置。

【請求項 4】

回動誘起手段として、ホルダプレートの先端が当接する遮蔽部材に該先端を下方へ導く湾曲面を形成した請求項 1 又は請求項 2 記載の自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置。

【請求項 5】

遮蔽部材のコンソールボックスの収納部の後面に対向する前面は、コンソールボックスの収納部の後面の形状と略合致する略平板形状に形成されており、且つ、この平板形状の後面の上部には、カップホルダ部の押戻し時に、ホルダプレートの取付部分に逃げ込める大きさの後方への凸条部が形成され、この凸条部に回動誘起手段を設けた請求項 4 記載の自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置。

20

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置としては、例えば、実開平 3-91244 号公報にて知られているように、周囲に壁を有する容器形状のカップホルダ部引出し自在に支持した構造になっている。このカップホルダ部は、引出した状態で、缶・瓶・カップ（以下、カップ等）を入れて保持できると共に、また小物入れとしても使用することができる。

30

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、このような従来の技術にあっては、カップホルダ部が容器形状をしているため、このカップホルダ部を自動車のコンソールボックスの後面部へ取付けるには、コンソールボックスの後方に該カップホルダ部の前後サイズに相応する大きな空間を確保する必要がある。従って、その分、コンソールボックスの内部に形成される小物入れ用の収納部の容積が圧迫されて小さくなる。

40

【0004】

この発明はこのような従来の技術に着目してなされたものであり、カップホルダ部の後方に大きな空間を確保する必要がない自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置を提供するものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

請求項 1 記載の発明は、内部に容器状の収納部が設けられたコンソールボックスの後面部に、引出し自在なカップホルダ部を取付けた自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置において、前記カップホルダ部の奥壁を、コンソールボックスの収納部の後面と後面部との間で移動自在な遮蔽部材により形成し、前記カップホルダ部の後面部に、カップ等の側面

50

を支持する水平なホルダプレートを、水平状態に維持可能で且つ下方へ折りたたみ回動自在に取付けると共に、該ホルダプレートの先端又は該先端が当接する前記遮蔽部材の少なくともいずれか一方に、前記カップホルダ部を前記コンソールボックス内へ押戻した際に、水平状態の前記ホルダプレートの下方への回動を誘起させる回動誘起手段を設けたものである。

【0006】

請求項1記載の発明によれば、カップホルダ部の奥壁が移動自在な遮蔽部材により形成されているため、遮蔽部材がコンソールボックスの収納部の後面に干渉しても、カップホルダ部をそのままコンソールボックス内に押し込むことができる。従って、コンソールボックスの後方に大きな空間を確保する必要がなく、その分、コンソールボックス内部の収納部の容積を大きく確保することができる。また、ホルダプレートが下方へ折りたたみ回動自在な構造であると共に、カップホルダ部をコンソールボックス内へ押戻した際に、水平状態のホルダプレートが回動誘起手段により確実に下方へ回動するため、カップホルダ部がホルダプレートを備えた構造のものであっても、コンソールボックスの後方に大きな空間を確保する必要がなく、コンソールボックス内部の収納部の容積を大きく確保することができる。

10

【0007】

請求項2記載の発明は、コンソールボックスの内部に該コンソールボックスの側面部との間に所定の空間を有する容器状の収納部を形成し、該コンソールボックスの後面部に形成した開口内に、前記空間内に左右一对の第1側面部を挿入した状態でコンソールボックスに固定されるレール部材を取付け、該レール部材の第1側面部に対して前後スライド自在に係合される第2側面部を介して支持され且つ少なくとも後側に底面部を備えたカップホルダ部を設け、カップホルダ部の後面部にコンソールボックスの後面部の一部を形成するカバーを取付け、カップホルダ部の第2側面部に対して前後スライド自在に係合される第3側面部を介して支持され且つカップホルダ部の奥壁を形成する遮蔽部材を設け、カップホルダ部の引出し時に、カップホルダ部に形成した係合部に遮蔽部材の前記係合部に対応した被係合部が押されて遮蔽部材がコンソールボックスの後面部付近まで引出された状態となり、カップホルダ部の押戻し時に、遮蔽部材が収納部の後面に当接した状態となる自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置において、前記カップホルダ部の後面部に、カップ等の側面を支持するホルダプレートを、水平状態に維持可能で且つ下方へ折りたたみ回動自在に取付けると共に、該ホルダプレートの先端又は該先端が当接する遮蔽部材の少なくともいずれか一方に、水平状態のホルダプレートの下方への回動を誘起させる回動誘起手段を設けたものである。

20

30

【0008】

請求項2記載の発明によれば、レール部材、カップホルダ部、遮蔽部材が、互いに前後スライド自在に係合する第1～第3側面部により支持されているため、コンソールボックスの側方の空間も小さくすることができ、コンソールボックス内部の収納部の容積をより一層に大きく確保することができる。

【0009】

請求項3記載の発明は、回動誘起手段として、ホルダプレートの先端を下方へ湾曲させたものである。

40

【0010】

請求項3記載の発明によれば、ホルダプレートの先端を下方へ湾曲させたため、先端が遮蔽部材に当接することにより、ホルダプレートが確実に下方へ回動する。

【0011】

請求項4記載の発明は、回動誘起手段として、ホルダプレートの先端が当接する遮蔽部材に該先端を下方へ導く湾曲面を形成したものである。

【0012】

請求項4記載の発明によれば、ホルダプレートの先端が遮蔽部材の湾曲面により導かれて、確実に下方へ回動する。

50

【0013】

請求項5記載の発明は、遮蔽部材のコンソールボックスの収納部の後面に対向する前面は、コンソールボックスの収納部の後面の形状と略合致する略平板形状に形成されており、且つ、この平板形状の後面の上部には、カップホルダ部の押戻し時に、ホルダプレートの取付部分に逃げ込める大きさの後方への凸条部が形成され、この凸条部に回動誘起手段を設けたものである。

【0014】

請求項5記載の発明によれば、遮蔽部材の前面には突出するものがないので、カップホルダ部をコンソールボックス内に押込んだ際に、遮蔽部材前面と収納部の後面が略密着状態となり、収納部の容積を大きく確保できると共に、略平板形状の遮蔽部材の前面の曲げや捩れの剛性は凸条部で確保することができる。

10

【0015】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の好適な一実施形態を図1～図5に基づいて説明する。1はコンソールボックスで、自動車の図示せぬ運転席と助手席との間に設置されている。このコンソールボックス1は内部に容器形状の収納部2が形成されており、該収納部2の上部には開閉自在な蓋3が設けられている。

【0016】

収納部2はコンソールボックス1の中央に形成されているもので、収納部2と後面部4との間には空間Aが形成されており（図2参照）、収納部2と側面部5との間にも空間B

20

【0017】

コンソールボックス1の後面部4における下側には開口6が形成されている。この開口6内にはレール部材7が固定されている。このレール部材7は、前記左右両側の空間B内に挿入された状態で固定される左右一对の第1側面部8を有しており、該第1側面部8の後端部は、図4に示すように、上面部9と下面部10により連結されている。第1側面部8の上下略中央位置には、内側に凸の第1ガイドレール11が形成されている。更に、第1側面部8の上端の一部には、下向きコ字状のフック12が形成されている。

【0018】

このレール部材7の内側にはカップホルダ部13が前後スライド自在に支持されている。このカップホルダ部13は、レール部材7の第1側面部8に対して前後スライド自在に係合される第2側面部14を有し、該第2側面部14には第1ガイドレール11に係合する断面相似形をした第2ガイドレール15も形成されている。また、カップホルダ部13の後側にはカップ等を載せるための底面部16も形成されている。

30

【0019】

カップホルダ部13の後面部17の上部で、一段さらに後方へ奥まった部分には、ホルダプレート18が前向きに設けられている。このホルダプレート18は後端のヒンジ19を中心に軸支されており、該ヒンジ19に設けた図示せぬバネにより、水平状態を維持するように上向きに付勢されている。また、このホルダプレート18は前記ヒンジ19を中心に付勢力に抗して下方へ折りたたみ回動することができる。尚、このホルダプレート18は、バネにより上向きに付勢されて水平状態を維持するようにしているが、これに限らず、クリック手段により水平状態を維持するようにしても良い。この場合、カップホルダ部13の押込みで、後述する「回動誘起手段」により、下方へ回動できる程度のクリック力に設定するのが望ましい。

40

【0020】

このホルダプレート18の前側には、カップ等の側面を支持する湾曲縁18aが左右に形成されており、該湾曲縁18aの中間部には「回動誘起手段」として下方に湾曲した形状の先端20が形成されている。また、このカップホルダ部13における第2側面部14の後端付近の上端部には、「係合部」として三角形をした突起21が形成されている。

【0021】

50

カップホルダ部 13 の後面部 17 には、更に後側からカバー 22 が取付けられている。このカバー 22 はコンソールボックス 1 の後面部 4 の一部を形成するものである。従って、収納部 2 とカバー 22 との間には、コンソールボックス 1 の後方側の空間 A に相当する空間が形成される。このカバー 22 には、乗員の手を入れる上部開口 23 と、灰皿 24 が内部に収納される下部開口 25 とが形成されている。灰皿 24 は下部開口 25 の下縁を中心にして、使用時に後方側へ引出して回動できるようになっている。

【0022】

そして、カップホルダ部 13 の内部には、収納部 2 の後面 2A よりも後側で前後にスライド自在な遮蔽部材 26 が設けられている。この遮蔽部材 26 には、カップホルダ部 13 の第 2 側面部 14 に対して前後スライド自在な第 3 側面部 27 を有し、該第 3 側面部 27 には第 2 ガイドレール 15 に係合する断面相似形をした第 3 ガイドレール 28 も形成されている。

10

【0023】

そして、左右の第 3 側面部 27 の後部には、前面がコンソールボックス 1 の収納部 2 の後面 2A の形状の略合致する概略平板形状の遮蔽部 26A が、左右の第 3 側面部 27 の後部を連結するように設けられている。また、この遮蔽部材 26 の遮蔽部 26A の後面の上部には、カップホルダ部 13 の押戻し時には、ホルダプレート 18 の取付部分（奥まった部分）に逃げ込める大きさの後方への凸条部 26B が左右にわたって形成されていて、ここにホルダプレート 18 の先端 20 と当接して、該先端 20 を下方へ導く「回動誘起手段」としての湾曲面 29 が形成されている。遮蔽部材 26 の第 3 側面部 27 の上端部は断面 L 形をしており、その前端 27A が前記第 2 側面部 14 の上端に形成した突起 21 により後側へ押されるようになっており、この部分が「係合部」としての突起 21 に押される「被係合部」となっている。また、第 3 側面部 27 は第 1 側面部 8 のフック 12 にて内側から支持される。尚、凸条部 26B があることで、略平板状の遮蔽部 26A の曲げや捩じりの剛性が確保される。

20

【0024】

次に、図 3 に基づいて使用方法を説明する。後席乗員がこの実施形態の小物入れ兼用カップホルダ装置を使用する場合は、まず、カップホルダ部 13 の後方に取付けられたカバー 22 の上部開口 23 に手を入れて、カップホルダ部 13 を後方に引出す。カップホルダ部 13 は第 2 側面部 14 の上端の突起 21 が、レール部材 7 の前端に当接する位置まで引き出される。この時、突起 21 が遮蔽部材 26 の第 3 側面部 27 の前端 27A も押すため、遮蔽部材 26 はコンソールボックス 1 の後面部 4 よりも若干前側位置まで出てくる。従って、この遮蔽部材 26 が、カップホルダ部 13 の奥壁として機能し、カップホルダ部 13 からコンソールボックス 1 の内部が見えなくなり、またカップホルダ部 13 内に収納した小物がコンソールボックス 1 内に脱落するのを防止することができる。

30

【0025】

引出したカップホルダ部 13 には、2 本のカップ等を保持することができる。図 3 は、カップ等として、細缶 C1 と太缶 C2 を保持した例を示している。細缶 C1 の場合は、ホルダプレート 18 は水平状態となり、その湾曲縁 18a で細缶 C1 の側面を倒れないように支持することができる。太缶 C2 の場合は、ホルダプレート 18 は水平になることができず、若干下がった斜め状態で、太缶 C2 の側面を支持する。斜め状態のホルダプレート 18 で太缶 C2 の側面を支持する場合は、太缶 C2 に対してホルダプレート 18 の付勢力が加わるため、太缶 C2 の支持がより確実になる。

40

【0026】

そして、灰皿 24 を使用する場合には、灰皿 24 をカバー 22 の下部開口 25 から引き出せばよい。カップ等の保持と、灰皿 24 の使用を同時に行えるため便利である。当然ながら、カップホルダ部 13 を引き出さずに、灰皿 24 だけを単独で使用することもできる。

【0027】

次に、カップホルダ部 13 をコンソールボックス 1 の開口 6 内へ押し戻す場合を説明す

50

る。カップホルダ部 13 をコンソールボックス 1 内に押し戻すと、第 2 側面部 14 と第 3 側面部 27 との摩擦力により、遮蔽部材 26 が前側へ移動して収納部 2 の後面 2A に当接した状態となる。更に、押し戻しを続けると、ホルダプレート 18 の先端 20 が遮蔽部材 26 の上部の湾曲面 29 に当接し、先端 20 の湾曲形状と湾曲面 29 との相乗作用により、ホルダプレート 18 の先端 20 が下方へ回動するように促され、そのまま遮蔽部材 26 とカップホルダ部 13 の後面部 17 との間に収納される（図 2 参照）。

【0028】

このように、カップホルダ部 13 の奥壁が移動自在な遮蔽部材 26 により形成されているため、遮蔽部材 26 がコンソールボックス 1 の収納部 2 に干渉しても、カップホルダ部 13 をそのままコンソールボックス 1 内に押し込むことができる。従って、コンソールボ
10
ックス 1 の後方の空間 A を小さくすることができ、その分、収納部 2 の容積を大きく確保することができる。

【0029】

また、使用時には水平なホルダプレート 18 でありながら、カップホルダ部 13 をコンソールボックス 1 内へ押し戻した際には、ホルダプレート 18 が下方へ確実に折りたたまれるため、この点においても、コンソールボックス 1 の後方の空間 A を小さくすることができ、その分、収納部 2 の容積を大きく確保することができる。

【0030】

更に、図 5 に示すように、レール部材 7、カップホルダ部 13、遮蔽部材 26 が、互いに前後スライド自在に係合する第 1～第 3 側面部 8、14、27 により支持されているた
20
め、コンソールボックス 1 の側方の空間 B も小さくすることができ、収納部 2 の容積をより一層に大きく確保することができる。

【0031】

加えて、カップホルダ部 13 をコンソールボックス 1 内へ完全に押し戻した状態で、カップホルダ部 13 の後方のカバー 22 と、コンソールボックス 1 の後面部 4 とが、連続した同一表面となるため、見映えの点でも優れている。

【0032】

【発明の効果】

請求項 1 記載の発明によれば、カップホルダ部の奥壁が移動自在な遮蔽部材により形成されているため、遮蔽部材がコンソールボックスの収納部の後面に干渉しても、カップホル
30
ダ部をそのままコンソールボックス内に押し込むことができる。従って、コンソールボックスの後方に大きな空間を確保する必要がなく、その分、コンソールボックス内部の収納部の容積を大きく確保することができる。

【0033】

また、請求項 1 記載の発明によれば、ホルダプレートが下方へ折りたたみ回動自在な構造であると共に、カップホルダ部をコンソールボックス内へ押し戻した際に、水平状態のホルダプレートが回動誘起手段により確実に下方へ回動するため、カップホルダ部がホルダプレートを備えた構造のものであっても、コンソールボックスの後方に大きな空間を確保する必要がなく、コンソールボックス内部の収納部の容積を大きく確保することができる。
40

【0034】

請求項 2 記載の発明によれば、レール部材、カップホルダ部、遮蔽部材が、互いに前後スライド自在に係合する第 1～第 3 側面部により支持されているため、コンソールボックスの側方の空間も小さくすることができ、コンソールボックス内部の収納部の容積をより一層に大きく確保することができる。

【0035】

請求項 3 記載の発明によれば、ホルダプレートの先端を下方へ湾曲させたため、先端が遮蔽部材に当接することにより、ホルダプレートが確実に下方へ回動する。

【0036】

請求項 4 記載の発明によれば、ホルダプレートの先端が遮蔽部材の湾曲面により導かれ
50

て、確実に下方へ回動する。

【0037】

請求項5記載の発明によれば、遮蔽部材の前面には突出するものがないので、カップホルダ部をコンソールボックス内に押込んだ際に、遮蔽部材前面と収納部の後面が略密着状態となり、収納部の容積を大きく確保できると共に、略平板形状の遮蔽部材の前面の曲げや振れの剛性は凸条部で確保することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この発明の1実施形態を示すコンソールボックス後部の斜視図。

【図2】 コンソールボックスを前後方向線で断面した断面図。

【図3】 カップホルダ部の引出し状態を示す図2相当の断面図。

10

【図4】 小物入れ兼用カップホルダ装置の構成部品を示す分解斜視図。

【図5】 コンソールボックスを左右方向線で断面した断面図。

【符号の説明】

1 コンソールボックス

2 収納部

2 A 後面

4 後面部

5 側面部

6 開口

7 レール部材

20

8 第1側面部

13 カップホルダ部

14 第2側面部

16 底面部

18 ホルダプレート

20 先端（回動誘起手段）

21 突起（係合部）

22 カバー

24 灰皿

26 遮蔽部材

30

26 A 遮蔽部

26 B 凸条部

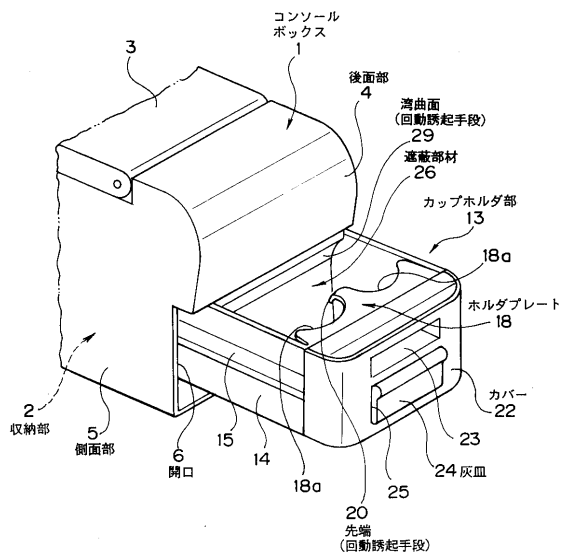
27 第3側面部

27 A 前端（被係合部）

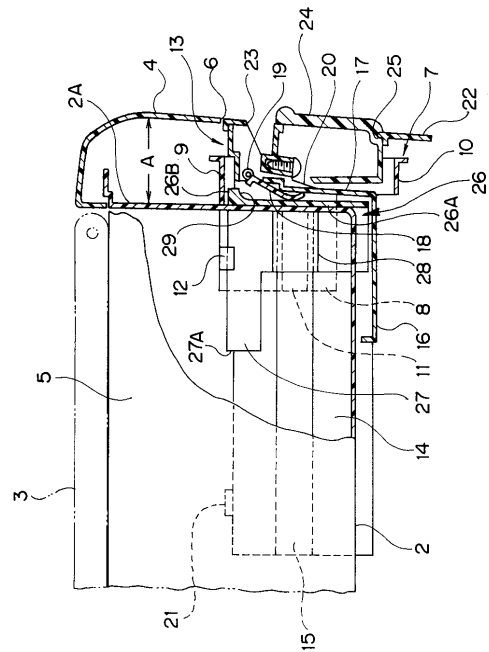
29 湾曲面（回動誘起手段）

A、B 空間

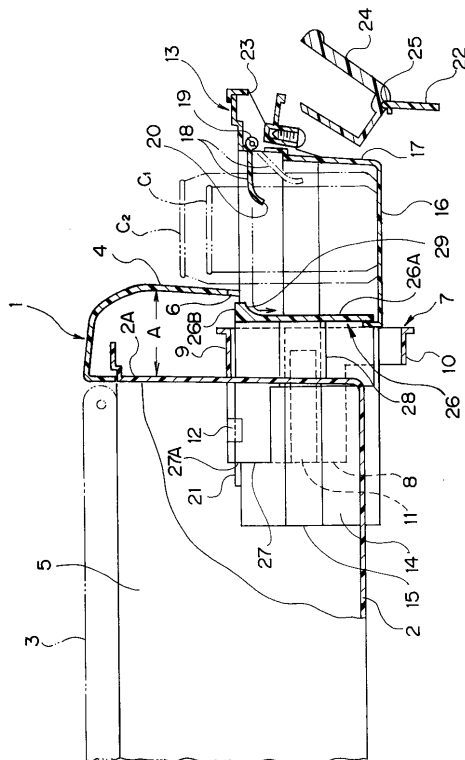
【図 1】



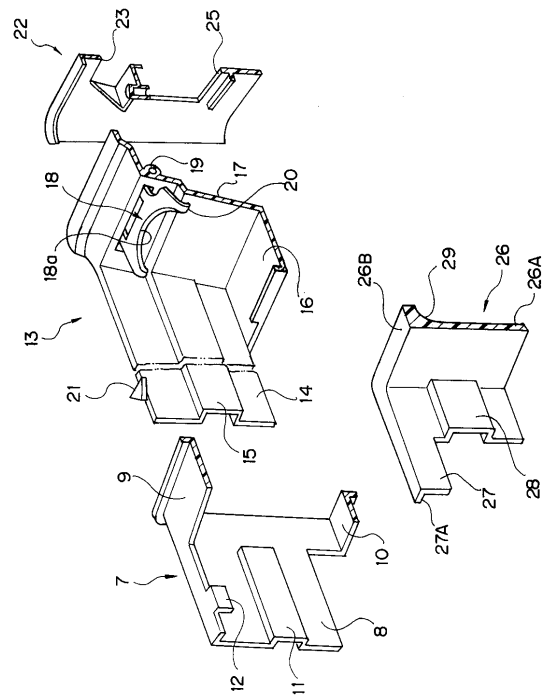
【図 2】



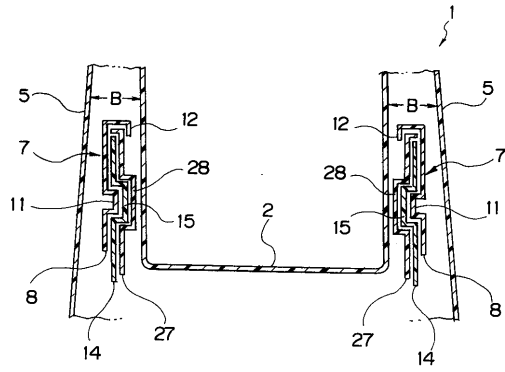
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(73)特許権者 000006068

三ツ星ベルト株式会社

兵庫県神戸市長田区浜添通4丁目1番21号

(74)代理人 100067644

弁理士 竹内 裕

(72)発明者 一丸 貴秀

神奈川県横浜市戸塚区舞岡町184番地1株式会社ニフコ内

(72)発明者 広瀬 次男

神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地日産自動車株式会社内

(72)発明者 正木 睦久

兵庫県神戸市長田区浜添通4丁目1番21号三ツ星ベルト株式会社内

審査官 柴田 由郎

(56)参考文献 特開平08-113089 (JP, A)

実開平04-133950 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)

B60R 7/04